

第1回 大阪 ミュージアム・文化 都市研究会

本日の課題 新しい都市構想提言にむけての概念整理
 アウトプットとプロセス確認

 ゲスト 角野幸博 氏
 (武庫川女子大学 生活環境学部 生活美学研究所 教授)

~ 10:50 頃 角野先生による話題提供 <視点の拡充と確認>
 (リクエスト .. ミュージアム都市・文化産業論 他)

~ 12:00 頃 質疑応答
 本研究会が提言する構想に向けて、方向性議論
 マップづくりに関してアウトプットのありよう (ホームワーク)

(次回の予告 6月26日 AM CEL にて)

< ホームワーク >

- 1 . 大阪ミュージアム文化都市 (仮称) マップ (ガイド ?) 作成にむけて
 具体的にどのような切り口・形状のものが必要だと考えますか
 * エリアで切る場合 ... どこまでを対象とするか、どんな分け方が
 * 事象・キーワードで括る ... 視点 (主軸・組み合わせ・手法)
- 2 . 既成の街ガイドやマップの中で、この研究会の発信に参考になりそうな
 もの (特に面白いと思うもの) をご持参、ご紹介ください。

5月14日 研究会 議事録

1. 角野幸博先生による話題提供

ミュージアムについての見解、企業ミュージアム、テクニカルビジット
エコミュージアムの取り組み事例から（詳細、レジメ参照）

2. 本研究会の取り組み、方向性について（企画書とホームワークをたたき台に）

* プロセスとアウトプットについて、時間軸に沿ってアクションを想定すべき <橋爪>

最初の段階：今までにない面白いマップ集をつくろう（10～20？）

200部でも限定で刷って売ってみる

シンポジウム 新しい街の見方

単行本

構想や施設（ビジターセンター他）・イベントなど提案

事業化へ（2010年メド）

* マップづくりが目的ではない。

「ミュージアム」都市として打ち出す強い理由づけがない？

（ミュージアム都市としてアピールする必要性があまり感じられない） <北辻>

常に、最終目的や取り組みの核を確認、（あるいは創造）する必要がある

* 問題意識として、大阪の魅力（コンテンツ）が、あまりにも知られていない。資源が眠りつつあり、これらを生かしアピールして、集客からもてなしへ、街のホスピタリティを高めたいという目的。その1つの視点としての「ミュージアム（アミュージアム）文化都市」。

<栗本>

* 誰に向けた話か？ ヨーロッパ人は、大阪を知らない人が多い。近辺の日本人にとっても、特に行きたい所ではない。

台湾の、エリア別のマップ（イラスト・建築構造等が紹介）のように、ミュージアム型まちづくりガイドブックとして、さらに詳しくマニアックになりたい人へのアプローチ（参考文献などの）案内も盛り込んでほしい。

<角野>

* 住民参画で、マップをつくってはどうか <山納>

以前「御堂筋」で試みたが、そのままでは使えない。プロのフォローがあれば可能。テーマを決めて募集することも有効。

* 大阪にはコンテンツがたくさん（複雑に）ある。そのプログラムをいかに組み、見せていくか。

* 大阪学大辞典がない。コンテンツもデータベース化されていない。

行政でできないような、特化やこだわりを反映させたい。

どこに向けて出すのかについては、海外ではない（アジア向けとすれば改めて考える）

従来のお阪とは変ったことを打ち出す。

例、駐車の名所、犯罪マップ、幽霊が出る場所マップ…。

テーマを決定して書き込む方法・ テーマをばらばらなものばかり一冊にする方法

平成のお阪名所図会か？

参考「ニューヨーク」イラストマップ50 (BY 長谷川さん).. イメージに近い
(ニューヨークは、マンハッタン島の限定された地域であり、地理的にも歴史的にも、
多くの要素を含んでいる大阪とは事情は異なるが。)

* 2010年の行政の事業に向けて、本当にミュージアムをつくっていくんだという
構想・提言がいただければありがたい <北辻>

* 「ミュージアム」について、一度概念などの整理すべき
* マップについては、市販のものでもマニアックにこだわったものも既にあり、
(熊谷真 美さん監修のガイドブックなど) テーマやルートの選択肢は無限にあるだろう。
その中身(コンテンツ・テーマそのもの)を検討することが研究会の目的なのか?
コンテンツ(マップ)づくりモデルを示し、あとは市民・賛同者にバトンタッチしてい
くということも考えられるが。 <長谷川>

<角野先生所感・コメント>

- * マップの 作り方(誰がどうやって創ったか) を明示すべき
(デザイナーなのか、公募なのか など) 新しい作り方を提示しないと。
有名な人がつくったマップというだけではだめ。
- * ミュージアム と言うからには、おさえておくべきものはある
- * エコミュージアムにはルールがある。サテライトとして認める基準(レベル維持のため)
大阪平野の場合、住民主導型 スタートは、自分たちが楽しむため。
住民の道楽としてのまちづくり VS 集客を意識したまちづくり
(前者が結果として集客効果と呼ぶことが少なくない)
- * だれが推薦者か(だれが発掘したか)...アーティスト50人か、大阪人なのか
- * 最近、マップを作ったりコンテンツを探し出すプロセスだけでは満足できない。
どう動かしていくのかに興味がある。
サテライトの1つ1つが倶楽部のように、支えている人(組織)がいることが必要
<エコミュージアムは、コア的施設とサテライト それらをつなぐトレイのセット。
サテライトを新たに1つつくるだけでもいいが、コア的施設に入ると全てがわかると
というような システムになればよい>

事務局より、今後の進め方

研究会の目的、目指す所を絶えず確認しつつ、第一ステップとしての、マップづくりを
手がけていく。

(予定) 次回.. エコミュージアムについて、じっくり概念を把握し、
大阪をフィールドとした見方や取り組みを模索する
次次回(7月末?)... 趣旨・研究目的に沿った、計画とマップづくり
について議論。(手法、役割分担、含め)